

安心・安全な有機農法に誇りをもち、
多品目を大切に育む

前川 勝人

(46歳)

宇陀市榛原



広大なハウスを一人で切り盛りし、念願の有機JAS認証を取得

ホウレンソウ、春菊、小松菜、ルッコラ。穏やかな気候に恵まれた大和高原にある前川さんのビニールハウスでは、多彩な葉物野菜が有機農法で栽培されている。ハウスの中に入ってまず驚くのは、その広さだ。一番広いもので奥行き105m、面積は787.5㎡と圧巻。就農4年目に増設し、現在は計5棟を切り盛りしている。早朝から日没まで、休日は日曜のみという毎日だが「二人で



収穫作業もすべて一人で行う前川さん

道にのっている。

脱サラして一念発起！ 師匠のもとでじっくり 学んだ日々

大学卒業後は営業職として多忙な日々を送っていた前川さん。35歳のときに遭遇したリーマンショックがひとつの転機となる。「この先どうなるのだろう」「自分で起業してみよう」。一度きりの人生について改めて考えていた矢先、たまたま新聞で目にしたのが「奈良県農業新規参入者支援事業」の記事だった。もともと農業に興味があったので、迷うことは



奥行き105メートルと圧巻の広さのハウス

なかった。プログラムの一環として農業大学校で1カ月間基礎を学んだ後、緑あつて山口農園へ。ここで学んだ無農薬の精神が、今の前川さんの原点となっている。

研修先の農園では、ハウス40棟の責任者としてやりがいのある仕事を任せてもらった。何もかもが一からのスタートだったが、農業大学校で習得したノウハウに助けられたという。

きれいな水と澄んだ空気 穏やかな気候が旨みを生む

標高350mの大和高原。市街地とはマイナス2℃ほどの気温差があり、夏でもひんやりと涼を感じるのが特徴だ。朝晩はグツと冷え込むエリアだが、この気温差が葉物野菜をおいしく育んでくれる。桜井市の自宅から車で約20分、冬場はスタッドレスタイヤが必須だが「会社員時代と比べてストレスフリーになりました」とにっこり。凛と澄みわたった空気、ホウレンソウや小松菜に加え、昨年の冬から栽培しているルッコラ。恩師である山口農園からの依頼で、ビザなどのトッピング用にとクリスマス時期に需要が高まっているのだそう。ルッコラは、広々としたハウスの中で元気がいいに葉を広げている。



有機農法で大切に育まれた春菊

オーガニックを、 ここ宇陀市から発信したい

脱サラ後、就農してから、まもなく8年目。同世代で大規模農業を展開しながらがんばっている仲間がいる。少しずつだが30代の若手も増えてきた。横のつながりも大切に、互いに切磋琢磨する毎日だ。同時に農業の世界でも高齢化が進み、農地を手放さざるを得ない人も増えてきた。けれども決してネガティブに考えるのではなく、「豊かな土地があるということですよ」と笑う前川さん。

ニンジンやトマトなど、他品目でも有機農業に取り組む農家が多いという宇陀市。法人として意欲的に展開している

ケースもある。市が誇る産業のひとつとして有機農業を広めていきたいという。「宇陀市といえばオーガニック。そんなふうに誰からも親しんで認識してもらいための一端を担うことができれば」と前川さん。自身の原点であり強みでもある有機農業を武器に、これからも挑戦は続いていく。



穏やかな大和高原で計5棟のハウスを切り盛りする



土地を4分割しながら多品目に挑戦